**２０２０年４月２６日　逗子協会　バガヴァッド・ギーター講座‐１**

**＜テーマ：トリ・グナ＞**

第１回目のテーマは、トリ・グナです。（tri：３ guṇa：性質）

**トリ・グナ**

**サットワ**（純質）･･･純粋、親切、普遍的な愛、謙虚、単純など。全部良い性質。

**ラジャス**（激質）･･･野心、欲望、執着、落ち着きがない、競争など。

**タマス**（暗質）･･･幻惑、鈍い、苦しみ悲しみ、怠ける、ぐずぐずする、寝過ぎ、動物的、暴力的など。

**なぜ、トリ・グナの勉強が大事なのでしょうか？**

**１．**トリ・グナを勉強しますと、現代科学のコスモロジー（宇宙の起源と発達の科学。たとえばビッグ・バン理論）とよく似ている、ヴェーダーンタのとても論理的な宇宙論を理解することができます。

その宇宙論は、元々ヴェーダーンタがつくったものではありません。

インドで１番昔の哲学者で聖者でもあった、カピラという方が、宇宙はどのようにあらわれたかについて、１番初めに説明しました。

その方が作ったサーンキヤ哲学は、インドの六派哲学の中で、１番古くて１番有名です。

そのあとに出たほとんどのインド哲学の学派が、サーンキヤの宇宙論を取り入れました。

内容に少し違いはありますが、ほとんど一緒です。

インド哲学の宇宙論はトリ・グナが基礎になっています。

**２．**トリ・グナを勉強しますと、インドの哲学や聖典に沢山出てくる、マーヤー（霊的な幻）と

プラクリティの話を理解することができます。

なぜならマーヤーとプラクリティは、トリ・グナが基礎になっていますから。

**３．**トリ・グナを勉強しますと、自分の性格を理解して、自己成長に役立てることができます。

なぜなら、人の性格はトリ・グナが基礎になっていますから。

**なぜ、人によって性格が違うのでしょうか？**

両親や先祖からの遺伝と、育つ環境によっても違いますが、大きな原因は、サムスカーラsaṃskāra（考えと行いの傾向）です。

人によって、考えと行いの傾向が違いますから、性格に違いが出ます（たとえば、霊的または世俗的、道徳的または非道徳的）。

ヒンドゥ教は、何回も生まれ変わる輪廻を信じます。前世で何回も同じことを考え、同じ行動をしますと、肉体がなくなっても精妙な体は続きますから、心の印象も続きます。

たとえ前世の経験を覚えていなくても、サムスカーラの形で、微妙なものが続きます。

もし、前世で何回も嘘をついたり、いっぱい世俗的な快楽をしますと、今生でもその傾向が出ます。

もし、前世でいつも真実を実践して神様について考えることが好きですと、今生でもその傾向が出ます。

ときどき、まわりの人が特に教えた訳でもないのに、とても音楽の才能がある子供がいますが、自然にそうなったのではなく、原因はサムスカーラです。

サムスカーラのもっと源、人の性格の基礎的な原因はトリ・グナです。

人によって３つのグナの割合が違うので、性格も違います。

トリ・グナの詳しい説明は、バガヴァッド・ギーターに出ています。

たとえば、サットワ的な人、ラジャス的な人、タマス的な人の場合に分けて、働き方、知識、楽しみなどについて説明しています。

人格のチェック・リストみたいですが、人について知るためでなく、自分が成長するためのものです。

もし、自分がもっとサットワ的になりたいなら、サットワ的な基準を勉強します。

もしカルマ・ヨーガを実践したいなら、どのように変化してサットワ的に働けばよいかを勉強します。

もし、集中してミスなく仕事が出来ても、ラジャス的な人はストレスや野心や憎しみが出ます。

一方、サットワ的に働く人は、結果への執着と欲望がないので、仕事を沢山しても幸せが出ます。

サットワが１番良い性質ですが、サットワも金の鎖です。

ヒンドゥ教の考えで、人生の目的は、サットワをたくさん持つことでも天国に行くことでもなく、鉄の鎖タマス、銀の鎖ラジャス、金の鎖サットワから解放されて悟ることです。

道徳的だけでなく、霊的な人になりたいなら、トリ・グナの勉強がとても大事です。

サーンキヤ哲学に、そのトリ・グナが出ています。

**ヴェーダーンタ（vedānta）とは**

ヴェーダ聖典の１番最後にウパニシャッド聖典をつくりましたから、ヴェーダ（veda：知識）の

アンタ（anta：最後）の部分という意味です。ヴェーダーンタの聖典は、ウパニシャッドです。

ヴェーダーンタのもう１つの意味は、「ヴェーダのエッセンス」で、ヴェーダのとても大事なギャーナ・カーンダ（jñāna kāṇḍa：知識の部分）です。

**サーンキヤ（sāṁkhya）とは**

サーンキヤの１つの意味は、数（saṁkhyā）です。大事な原理が２４あり（ふつうインド哲学では２４原理で言っています）、サーンキヤ哲学と言います。

もう１つの意味は、知識です。サンミャク・ギャーヤテー（samyak：正しく完全に　jñāyate：知られる）、つまり、正しい本当の知識が入っているのでサーンキヤ哲学と言います。

サーンキヤ哲学ができて以降、トリ・グナ（プラクリティ、マーヤー）の話は、ヴェーダーンタ哲学、

バーガヴァタム、バガヴァッド・ギーター、賛歌などにもたくさん出ています。

**[バガヴァッド・ギーターに出ているトリ・グナの話]**

*どんな人であろうと、一瞬たりとも何もせずにじっとしていることはできない。なぜなら人間は、*

*プラクリティから生じるグナにより、どうしても何かをせずにはおれなくなるからだ* // *Gita* *3-5*

この節の「prakṛtijair：プラクリティから生じる guṇaiḥ：グナによって」というのは、

すべての人の性格に入っているグナの影響で、私たちは無意識に仕事をしていますが、そのグナはプラクリティから出ているということです。

*あらゆる活動は、プラクリティのグナによってなされるのだが、自分の心が我執によって曇らされている者は、『すべて私が為しているのだ』と思い込んでしまう// Gita* *3-27*

この節にも、「prakṛteḥ：プラクリティのkriyamāṇāni：行為は　guṇaiḥ：グナによって」とあります。私たちは「私がやっている」と考えますが、それは間違いで、本当は「我々の中でプラクリティが働いている」のです。

*さて、プラクリティとプルシャは、ともに無始であることを知り、変化作用とトリ・グナは、ともに*

*プラクリティから生ずることを知るがいい// Gita* *13-20*

この節にも、プラクリティとグナの話が出ています。

また、**ギーター１４章**「物質自然の三性質識別の道）」は、すべてグナについての話です。

**ギーター１７章**「信仰の三面識別の道）」と、**ギーター１８章**「解脱の道」にも、トリ・グナの話が

あります。

**[賛歌に出ているトリ・グナの話]**

・私たちが毎日のアラティで歌う、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダがつくったシュリー・ラーマクリシュナの賛歌『カーンダナ・バヴァ・バーンダナ』の歌詞に、「あなたは或るとき性質があり、或るとき性質がない（nirguṇa guṇa-may）」とあります。「性質がない」とは、トリ・グナを超越しているという意味です。シュリー・ラーマクリシュナの性格はとてもサットワ的で、時々グナを超越し、サマーディに入りました。

・もう１つの賛歌『オーム・フリム・リタム』の歌詞にも、「あなたはトリ・グナを超越しています。それだけでなく神聖なグナも持っています（グナジーット・グネッデヤー）」とあります。

・聖母賛歌『サルヴァ・マンガラ・マンガリエ』の歌詞には、「すべてのグナは母なる神さまがもっています。それだけでなく、すべてのグナの中に母なる神さまは存在しています（グナーシュラエー・グナマイー）」とあります。

・スワーミー・ヴィヴェーカ―ナンダが、シュリー・ラーマクリシュナから初めて教えてもらったマザー・カーリーの賛歌の歌詞には、「マー、或るときあなたにグナはない。或るときはグナを超越しています。或るときはグナもあります」とあります。マザー・カーリーの１つの姿はブラフマンです。

そのとき性質はありません。もう１つの姿はトリ・グナです。宇宙を創造、維持、破壊していますから。

**サーンキヤ哲学（宇宙はどのようにしてあらわれたかについての宇宙論）**

**宇宙の源は、２つの原理「プルシャ」と「プラクリティ」です。**

|  |  |
| --- | --- |
| **puruṣaの特徴** | **prakṛtiの特徴** |
| ・実在  ・純粋な意識  ・性質がない  ・ブラフマンと似ている  ・永遠  ・変化しない  ・何もしないという意味で、プラクリティを見るだけの傍観者  ・知識、自由、遍在  ・男性ではない。人には例えられない  ・知性も、自我も、記憶も、心も、感覚もないので、仕事は何もできない。  ※性質を持っていないので、悟らないと、プルシャのことは分からない。 | ・非実在  ・意識がない、物質  ・性質がある  ・根本エネルギー　primordial energy  ・永遠ではない  ・変化する  ・プルシャから見られる（\*1）  景色としての存在  ・トリ・グナでできている  ・別名、アッヴャクタ（あらわれていない）と言う  ・自分だけでは物をつくることができない  ・その中には、執着も苦しみ悲しみ楽しみも幻惑（マーヤー）もある。 |

プルシャは、純粋な意識だけですから、何も仕事ができません。

プラクリティは、物質ですから、自分だけで物をつくることができません。

それでは、どのようにして宇宙はできますか？

科学の言葉で言いますと、カタリスト（触媒）みたいです。たとえばハスの花は、太陽の影響を受けて開きますね。それと同じ様に、プルシャとプラクリティが近づくと（\*2）、プラクリティのトリ・グナのバランスが崩れて、プラクリティから宇宙があらわれます。

トリ・グナのバランスがとれているとき、プラクリティから宇宙は出ません。

宇宙があらわれるには、プルシャとプラクリティ、両方が必要です。

プルシャは本当はブラフマンです。ブラフマンをイメージして下さい。プルシャはいつも、永遠、純粋、知識、自由、遍在です。

\*1, 2･･･「見られる」「近づく」とは、in the prence of（～の存在下で）という抽象的意味。

**すべての物質にトリ・グナがあります。サマーディの時、トリ・グナを超越します。**

３つのグナは、三本の紐で編んだ縄の様に、いつも一緒にいて、割合だけが違います。

からだをもっていますと、絶対にサットワもラジャスもタマスもあります。

悟った人も、眠るときは、タマスの性質で眠ります。

サマーディに入る時、からだ意識がなくなり、トリ・グナを超越します。

また普通の意識に戻りますと、トリ・グナが働きだします。

**ヴェーダーンタは、サーンキヤの宇宙論を借りています。では何が同じで、何が違いますか？**

**・サーンキヤの考え**

二元論的。プルシャとプラクリティは別の存在。

プルシャの数は、性格が同じものが沢山ある。

**・ヴェーダーンタの考え**

非二元論的。プルシャとプラクリティは同じ存在。

プルシャの数は１つ。

２つのものが無限になることはできません。その点でサーンキヤは矛盾しています。

１つの存在（ブラフマン）から、別の状態（プラクリティ）が、あらわれているだけです。

基本原理は、無限なブラフマン１つだけです。

ヴェーダーンタは、例え話で非二元論を説明します。

・火から、光と熱を分けることはできません。

・眠って何もしていない人が、起きて仕事をはじめても、同じ人です。

（何もしていない時はブラフマン、仕事をしている時はプラクリティ）

・海の波は、海から出てまた海に入ります。湖の波は、湖から出て湖に入ります。

**プルシャの存在下で、プラクリティから、宇宙はどのようにあらわれますか？**

**プラクリティから、**

**[まず、宇宙的なレベルであらわれます]**

①　最初、宇宙的な**マハット** があらわれます。

（mahat：大なるもの。別の言葉で、コスミック・インテリジェンス、ブッディbuddhi、知性）

**②**次に、宇宙的な**アハムカーラ**（ahaṃkāra。コスミック・エゴ、自我）

**③**宇宙的な**マナス**（manas：心）

**④**　宇宙的な**５つの認識器官**　**パンチャ・ギャーネーンドリヤ**

（pañca jñānendriya：耳karṇa、皮膚tvac、眼cakṣus、舌jihvā、鼻nāsikā）。

※宇宙レベルでの精妙な器官

**⑤**　宇宙的な**５つの行動器官**　**パンチャ・カルメーンドリヤ**

（pañca karmendriya：発声器官vāc、手pāṇi、足pāda、排泄器官pāyu、生殖器官upastha）。

※宇宙レベルでの精妙な器官

**⑥**　宇宙的な**５つの精妙な要素**　**パンチャ・タンマートラ**

（pañca tanmātra：空 vyoma、風marut、火tejas、水ap、地kṣiti）

**⑦**　５つの精妙な要素を色々な割合で混ぜた、宇宙的な**５つの偉大な要素**　**パンチャ・マハーブータ**

（pañca mahābhūta：空 vyoma、風marut、火tejas、水ap、地kṣiti）

※⑥番と比べると、⑦番は「粗大な要素」です。

例えば⑥番のタンマートラの空（くう）は、100%空だけで出来ていますが、⑦番のマハーブータの空は、空1/2と、風、火、水、地1/8ずつで出来ていると聖典に記されています。

※パンチャ（pañca）=５

その感じで、宇宙はプラクリティから出て、それぞれにトリ・グナがあります。

プラクリティからパンチャ・マハーブータまでを数えて、２４原理です。

**[次に、個人的なレベルであらわれます]**

・宇宙的な「５つの偉大な要素（空、風、火、水、地）」の、サットワ的な部分を主にして、人の自我と知性と、記憶と、心と、５つの認識器官（耳、皮膚、目、舌、鼻）ができます。

・宇宙的な「５つの偉大な要素」のラジャス的な部分を主にして、人の５つの行動器官（発生器官、手、足、排泄器官、生殖器官）ができます。

・宇宙的な「５つの偉大な要素」のタマス的な部分を主にして、人の肉体ができます。

その感じで考えますと、私たちはプラクリティ（トリ・グナ）から出ていることがわかります。

３つのグナは、すべてのものに色々な割合で入っていて、人の性格も作っていますから、皆さんの性格も別々になるわけです。

以上